

ぼくがおにいちやんだよ

ゆうとくんは、こみちようちえんにかよっています。ゆうとくんは、さくらちゃんがだいすきです。さくらちゃんは、ともだちのさきちゃんのいもうとです。

「さくらちゃん、かわいいな。ぼくのとをにぎっているよ。」

「わたしのとにもにぎっているよ。」

「ほんとだ。さくらちゃん、いないいないばあ。」

さくらちゃんは「キャッキャツ」と、てあしをバタバタさせてわらいました。

・・・ぼくのいえにもあかちゃんがいたらな・・・

あるひ、おかあさんがゆうとくんにいいました。

「あのね、ゆうと。おかあさんのおなかのなかにあかちゃんがいるの。ゆうとは、おにいちやんになるんだよ。」

「え！ほんと？ヤッター！」

ゆうとくんはとてもうれしくなり、へやじゅうをかけまわりました。

おかあさんのおなかはどんどんお
おきくなっていきました。

「おかあさん、おなかはどう？」

「だいじょうぶよ。さわってみる？」

ゆうとくんはどきどきしながら
おかあさんのおなかのうえにて
をおきました。

「あかちゃん、こんにちは。」

すると、おなかのなかからポンとへんじがきました。



ゆうとくんはうれしくてうれしくて、それからなんどもおかあさんのおなかにてをのせて、

「げんき？」

「なにをしているの？」

「はやくあいたいな。」

とはなしかけました。

つぎのにちようび、おとうさんとおかあさんがはなしをしていました。

「なにをはなしているの？」

「うまれてくるあかちゃんのなまえをかんがえているのよ。」

「ゆうとがおかあさんのおなかのなかにいたときも、おとうさんとおかあさんでなんにちもなんにちもかんがえて、ゆうとってなまえにきめたんよ。」

「へえ。」

「なまえは、おとうさんとおかあさんからのゆうとへのさいしょのプレゼントなんだよ。ゆうとってなまえは、みんなにやさしくするこにそだってほしいとおもってきめたんだよ。」

「へえ。そうだったんだ。」

「ゆうとはみんなにやさしくしているかい？」

「うん。ともだちともなかよしだし、ようちえんにいるうさぎやにわとりにもやさしくしているよ。ぼく、ゆうとってなまえだいすき！」

「そうか。ゆうともおおきくなったな。じゃあ、3にんであかちゃんのなまえをかんがえてプレゼントをしよう。」

ゆうとくんは、3にんでかんがえたあかちゃんのなまえをおかあさんにかいてもらい、そのよこにあかちゃんのにがおえをかきました。

「どんなかおをしているのかな。」

「あかちゃん、なまえのプレゼントきにいってけるといいな。」

あるひ、おかあさんのおなかがいたくなりました。“もうすぐうまれるよ”

というあかちゃんからのあいずです。

しんぱいそうなゆうとくんにかんごしさんが、

「おにいちゃん、こころのなかでおかあさんとあかちゃんにがんばれ！がんばれ！っておうえんしていてね。」

といました。

おかあさんがんばって…

あかちゃんがんばって…

どのくらいのじかんがたったでしょう。ゆうとくんがふとめをあけると、

「オギャー。オギャー。」

とげんきなあかちゃんのがきがきこえてきました。

「やった！うまれた！」

とおおよろこびで、おとうさんにとびつきました。

しばらくして、へやへはいると、おかあさんにだっこされたあかちゃんがありました。ゆうとくんはドキドキしながら、まっかなかおのあかちゃんをのぞきこんで、

「ゆうかちゃん、こんにちは。

ぼくがおにいちゃんだよ。いっぱいあそぼうね。」

とって、おとうさん、おかあさんといっしょにかんがえたなまえをプレゼントしました。

